

ミナミキイロアザミウマ情報第1号（ナス・キュウリ）

令和7年5月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナス、キュウリで多発！注意しましょう！

1 発生状況

4月下旬に実施した巡回調査の結果、ナスにおけるミナミキイロアザミウマ（図1）の寄生葉率が6.05%（平年2.24%、前年1.57%）で、過去10年と比較して最も高い状況でした。

またキュウリにおける寄生葉率は35.00%（平年20.08%、前年41.03%）で、過去10年と比較して2番目に高い状況でした。また、本種が媒介するメロン黄化えそウイルス（MYSV）によるキュウリ黄化えそ病（図2）の発病株率は13.00%（平年1.81%、前年6.08%）で、過去10年と比較して最も高い状況でした。



図1 ミナミキイロアザミウマ成虫



図2 キュウリ黄化えそ病発病葉

2 防除対策

- (1) 本種の発生を認めたら、表を参考にして、密度の低いうちに防除しましょう。
- (2) 本種は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統（表のIRACコード参照）の薬剤の連用は避けましょう。また、天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して薬剤を選定しましょう。
- (3) ミナミキイロアザミウマにより媒介されるキュウリ黄化えそ病の発病株は、伝染源となるため見つけ次第除去しましょう。
- (4) 作終了後はハウスの蒸し込みを行い本種を死滅させるとともに、ほ場周辺の除草に努めましょう。
- (5) 次作において、本種の施設内への侵入を防ぐために防虫ネットを利用しましょう。白色系を使用する場合は目合い0.4mm以下のネットを、赤色系を使用する場合は目合い0.8mm以下のネットを利用しましょう。防虫ネットにやぶれがある場合は補修

しましょう。

- (6) 青色の粘着板などを利用して発生状況をよく観察し、早期発見に努めましょう。
また天敵を積極的に活用しましょう。

表 ミナミキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

作物名	適用害虫名	農薬名	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
きゅうり	アザミウマ類	ベネビアOD	収穫前日まで	3回以内	28
		アグリメック	収穫前日まで	2回以内	6
	ミナミキイロ アザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	3回以内	13
		ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
なす	アザミウマ類	ファインセーブ フロアブル	収穫前日まで	3回以内	34
		モベントフロアブル	収穫前日まで	3回以内※	23
		アフーム乳剤	収穫前日まで	2回以内	6
		グレーシア乳剤	収穫前日まで	2回以内	30
	ミナミキイロ アザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	4回以内	13

※モベントフロアブルは、灌注での登録もあるため、総使用回数に注意する。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。